

みんなで取り組むクビアカ対策 特定外来生物カードを配布します

近年、クビアカツヤカミキリなどの病害虫をはじめとする特定外来生物が県内へ侵入し、生息域を拡大しています。

そこで群馬県では、クビアカツヤカミキリの拡散抑制および特定外来生物に関する県民への周知を図るため、10種類の「特定外来生物カード」を作成しました。

なお、本カードは、県内で発見したクビアカツヤカミキリの成虫の死がい10匹以上を、次の配布場所へ持ち込んでいただいた県民1人につき、カード1枚を配布します。

1 カードの概要

・県内に侵入が確認されている又は侵入警戒種となっている特定外来生物10種類(※)について、生態や防除の方法を記載しています(図柄詳細は次頁参照)。

※アカミミガメ、アメリカザリガニ、アライグマ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、ナガエツルノゲイトウ、セアカゴケグモ、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリ、ヒアリ

2 配布期間

・令和8年6月1日～無くなり次第終了

3 配布場所

- ・群馬県自然環境課(県庁15階 自然環境係)
- ・渋川森林事務所(総務森林係)
- ・西部環境森林事務所(地域林業支援係)
- ・藤岡森林事務所(総務森林係)
- ・富岡森林事務所(総務森林係)
- ・吾妻環境森林事務所(地域林業支援係)
- ・利根沼田環境森林事務所(地域林業支援係)
- ・桐生森林事務所(地域林業支援係)
- ・太田市環境対策課
- ・藤岡市自然環境課
- ・みどり市SDGs推進課
- ・桐生市公園緑地課
- ・敷島公園 管理事務所
- ・ぐんまこどもの国(金山総合公園) サービスセンター

- ・アイ・ディー・エー群馬の森 管理事務所
- ・観音山ファミリーパーク サービスセンター
- ・多々良沼公園 ボランティアセンター

4 配布ルール

- ・特定外来生物の生きたままの運搬は原則禁止されています。
成虫を捕獲したら、必ずその場で殺してください。
- ・死がいや損壊している場合は、クビアカツヤカミキリであると明確に識別できるものについては、1匹としてカウントします。
ただし、識別が困難なものについてはカウント対象外となる場合があります。

5 カード図柄

生態や防除方法を記載しています。

 <p>クビアカツヤカミキリ</p> <p>幼虫が木の中を食い荒らし、やがて木は腐って死んでしまう。サクラの被害が進むとお花見ができなくなることも。</p>	<p>原産地 中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム</p> <p>特徴 体長20~40mm。頭部(ノコ)が褐色で体全体はツヤのある黒色。</p> <p>生態 幼虫は木の中で2~3年かけて成長し、6~8月頃に成虫になって木から出てくる。一匹のメスが卵を産む産卵に1,000個以上産卵した例があるなど、繁殖力が強い。</p> <p>主な生息場所 サクラ、ウメ、モモなどのバラ科樹木の樹皮</p> <p>発見したときの対応法 クワで踏みつぶすなどで、その場で駆除する。</p>	 <p>ヒアリ</p> <p>刺されると強い痛みがある。日本の在来アリを追い出したり、小動物を食べて減らしてしまう可能性がある。</p>	<p>原産地 南米中部</p> <p>特徴 からだはツヤツヤで赤褐色。膝関節は半透明の赤。お尻に棘があり、人や動物を刺す。</p> <p>生態 土で巣を25~40cm、高さ15~50cmのドーム状のアリ塚を作る。中には女王アリと数千から数万匹の働きアリが集団で生活する。</p> <p>主な生息場所 庭や畑地、公園などの比較的開けた場所や緑地では生息が確認されている。</p> <p>発見したときの対応法 庭や畑地などで発見した場合は、環境省ヒアリ相談ダイヤルの市役所・町村役場に連絡する。ヒアリ相談ダイヤル0570-046-110</p>
 <p>アカミミガメ</p> <p>日本固有のカメのエサや日光浴・繁殖の場所をうばって、減らしてしまう。</p>	<p>原産地 北米~中央</p> <p>特徴 体長約20~28cm。甲羅は緑色っぽい茶色で、目の後ろに白いラインがある。過去に飼育者が「ミドリガメ」の産卵でペットとして輸入された。</p> <p>生態 雑食性で、水草や藻などの植物、魚類、エビやカニ、水生昆虫などの動物も食べる。日本固有のカメ(ニホンシガメ)よりもたくさん産卵を産み、一年に何度も産卵する。</p> <p>主な生息場所 池、月川、用水路、水田</p> <p>発見したときの対応法 自分でも飼育していない限り、捨つたり、駆除させたりせず、そのままそっとしておく。</p>	 <p>アメリカザリガメ</p> <p>水草や水生昆虫、オタマジャクシ、魚類などを食べて、減らしてしまう。</p>	<p>原産地 北米</p> <p>特徴 体長約10~15cm。体全体が赤から赤褐色。ツリガエなどのエサが得意で持ち込された。</p> <p>生態 産卵や産卵に費やす産卵が多い。1回の産卵で産む卵の数は200~1,000個。</p> <p>主な生息場所 月川、湖沼、池、用水路、水田、たけの池など</p> <p>発見したときの対応法 自分でも飼育していない限り、捨つたり、駆除させたりせず、そのままそっとしておく。</p>
 <p>アライグマ</p> <p>農作物を食べる。家に侵入して物を壊したり、フンや尿をする。</p>	<p>原産地 北米~中央</p> <p>特徴 体長約40~60cm。体毛茶褐色。尻尾には黒い環状の模様がある。</p> <p>生態 年1回産卵。出産期は4~6月で、1回に3~6個を出産。一般的に群行性、夜行性が多い。</p> <p>主な生息場所 都市圏から農村・農地帯までの水田・木のうらや雑草、人家や畜舎を巣とする。</p> <p>発見したときの対応法 市役所・町村役場に連絡する。</p>	 <p>オオキンケイギク</p> <p>日本固有の植物のすみかを奪い、その植物を倒にしていた動物もいなくなる。</p>	<p>原産地 北米</p> <p>特徴 5~7月にかけて黄色の花を咲かせ、その花を食す。キク科の多年生草本。高さは20~70cm程度。非常に強靭で繁殖力が強い。</p> <p>主な生息場所 道端、河川沿い、緑地帯など日当たりの多い場所</p> <p>発見したときの対応法 緑地帯に生え、その場でビニール袋に入れて密閉し、数日間日光にさらして乾かした上で、可燃ごみとして処分する。</p>

キク科 キク属
オオハシゴソウ



日本固有の植物のすみを奪い、その植物を倒していた動物もいなくなる。

人形 5段階 5段階 5段階

原産地

分布

特徴

キク科の多年生草本。高さ1~3m、花径6~10cm程度。7~10月頃に花を咲かせる。種子が多く生育しやすいので、大群落を形成する。

主な生息場所

河川、荒地、畑地、月形池、湧き

発見したときの対応法

標本を採取し、その場でビニール袋に入れて密閉し、乾燥剤を入れた状態で持ち帰る。乾燥剤を入れた状態で持ち帰る。乾燥剤を入れた状態で持ち帰る。

写真/撮影者の氏名

ナガエツルノゲイトウ



日本固有の植物のすみを奪ったり、成長を阻害したりする。また、水路をふさいで洪水をおこす。

人形 5段階 5段階 5段階

原産地

分布

特徴

水辺であるが、陸地でも生育可能。4~10月に花を咲かせる。葉はせせりやく、わずかな葉の裏や節から再生する。

主な生息場所

水辺、緑地帯

発見したときの対応法

陸地では密着剤で枯らせる。水辺では密着剤で枯らせる。水辺では密着剤で枯らせる。

写真/撮影者の氏名

クモ科 ヒメグモ属
セアカゴケグモ



かまれると痛みや吐き気などを起こす。

人形 5段階 5段階 5段階

原産地

分布

特徴

オーストラリア

メス：体長10~15mm、腹部背面には赤色の帯状の模様があり、毒を持つ。オス：体長3~6mm、毒はない。

生態

6~10月頃に繁殖期だが、一年中出現。基本的に乾燥した環境で生活し、暗い場所を好む。

主な生息場所

日当たりのよく暖かい場所。乾燥した土壌や石の隙間、花の葉裏、花筒の隙間、木の葉裏、花筒の隙間、木の葉裏、花筒の隙間。

発見したときの対応法

必ずくわで踏みつぶすか、専用の殺虫剤で駆除する。必ずくわで踏みつぶすか、専用の殺虫剤で駆除する。

写真/撮影者の氏名

ツヤハダゴマダラカミキリ



幼虫が木の中を食い崩らし、やがて木は腐って死んでしまう。

人形 5段階 5段階 5段階

原産地

分布

特徴

中国、朝鮮半島、台湾

体長は17~40mm、鞘翅は黒く、黒色とうすい黄色のシマ模様をしている。鞘翅は硬いので、白色の卵から脱皮する。

生態

5月下旬~10月に出現。成虫は生きている木に寄生し、中を食い崩らす。

主な生息場所

カエデ、トチノキ、サナギ、ニシ等の樹木

発見したときの対応法

くわで踏みつぶすなどして、その場で駆除する。

写真/撮影者の氏名